

「新型インフルエンザ・パンデミック対策としての都市交通輸送人員抑制策の  
有効性の検討及び実施シミュレーションに関する調査研究」  
第1回アドバイザー会議 議事メモ

1. 日時：平成 20 年 9 月 8 日（月）10:30～12:30
2. 場所：中央合同庁舎 2 号館低層棟共用会議室 2AB
3. 議事内容

凡例「質問・意見」：アドバイザー・オブザーバーからの質問・意見、  
「感染研」：国立感染症研究所による回答、  
「国政研」：国土交通政策研究所による回答、「事務局」：事務局による回答

○シミュレーションの前提条件について

質問・意見：シミュレーションの前提条件となるパンデミック時の対策について、具体的な内容を提示してほしい。対策内容、開始時点、解除時点等によって結果が大きく異なると考えられる。

感 染 研：解除時点については、シミュレーションの中で流行が収束すれば対策を解除するという設定にする。

質問・意見：シミュレーションを実施する前に、前提条件をメール等で教えてほしい。

事 務 局：シミュレーション実施前に、前提条件について照会する。

○調査のアウトプットについて

質問・意見：この調査のアウトプットについて、問題提起まで行うのか、結果を踏まえた提言まで行うのか。

事 務 局：判断材料の提供までを考えている。ただし、議論がまとまれば提言まで行いたい。

質問・意見：東京の都市機能維持の目的に対して、どのような落とし込みを想定しているのか。

国 政 研：落とし込みはソリューションと言い換えられる。ソリューションのアイデアについては、幾つかの考えがある。輸送人員抑制と感染抑制の効果とを社会がどう受け止めるかを確認し、そのタイミングでソリューションの議論を行う予定である。社会システムを大きく変更する必要があるため、議論の収斂は困難であると思うが、パンデミックに備えて議論はしておくべきである。

○企業ヒアリング・アンケートについて

質問・意見：企業に対するヒアリングについて、一般事業者も対象とするのか。社会機能維持者であれば、対策を講じている企業もあるが、一般事業者、特に中小企業はほとんど対策を講じていないのが現状である。

事 務 局：まず社会機能維持者にヒアリングをして、その後抑制輸送量等を算出した後、一般事業者にアンケートを行い、論点整理を行う予定である。

質問・意見：一般事業者はパンデミックの状況がわからないため、具体的な状況を説明せずに一般的なアンケートを行うことは無意味である。抑制輸送量等を提示した上でアンケートを行う必要がある。

質問・意見：企業によって取組が異なるのと同様に、社員によっても立場や知識によって取組が異なる。この点に留意してほしい。

質問・意見：一般事業者アンケートについて、対象とする企業やサンプル数等は、どう見

込んでいるのか。

事務局：現時点では、一般事業者に対するアンケートについては、具体的なサンプル数までは詰めていない。ただし、パンデミックという、今まで経験したことのない世界を想定しているため、偏りなく把握できるように、ある程度のサンプル数が必要だと考えている。また、アンケートはパンデミック時に想定される状況を提示した上で実施したい。

#### ○抑制輸送人員推計について

質問・意見：パンデミック時の鉄道輸送について、鉄道局と鉄道事業者との間で議論を行っているところである。鉄道事業者も具体的な対策は決めていないため、停車時間等を想定して物理的に運行本数の上限が設定されるのではないかといいことや、全事業者が一斉に対策を講じると想定することなどを考えている。

質問・意見：鉄道事業者に対するヒアリングについて、従業員の感染状況等により対応は異なるはず。この前提条件をしっかりと設定する必要がある。

事務局：鉄道輸送については今回の意見をふまえて検討する。ヒアリングはパンデミック時に想定される状況を提示した上で実施したい。

#### ○対策効果検証シミュレーションのケース設定について

質問・意見：シミュレーションの対策ケースについて、乗客全員にマスクを着用させるケースは扱わないのか。

感染研：ケースとしてはありうる。しかし、マスクの種類や着用の方法によって、効果が変わるため、定量的にシミュレーションに反映することは難しい。

質問・意見：鉄道事業者の立場からだと、乗客同士1mの間隔をあけることも正しいマスクの着用方法を提示することも、両方難しい。

国政研：鉄道事業者だけでできることには、限界がある。このため、経済団体等のご協力も得て、本調査研究を立ち上げた。パンデミックに係る既存の研究事例として、鉄道を全て運休させた場合のシミュレーションがあるが、全て運休させることは現実的ではない。重要なことは、感染拡大を抑制しながら、東京の都市機能をどう維持していくのか、そのために社会はどのようにするかを検討するための判断材料を提供することである。その中で、マスクの効果は意見が分かれるところであり、シミュレーションを行う際に、所与の前提条件にしておけばよいと考える。特にパンデミックの対策はハードよりもソフト対策が中心となるため、社会としてどう対応するか、きちんと議論することが有益である。

質問・意見：パンデミック時の行動として、定量的に把握できるものとできないものがある。シミュレーションには定量的に把握できるものを前提として、定量的に把握できないものは、結果の考察の際に留意すればよい。

事務局：本日のアドバイスを参考にさせていただく。また、今後の調査を進めていく上で、適宜、アドバイザーの方々にご相談いたしたく、お願いしたい。次回は、スケジュールにあるように12月ごろを予定しているが、皆様のご都合を伺って調整させていただきたい。

以上